（添削指導をイメージしていただくためのサンプル文です。実際の依頼原稿ではありません。）

日本語の変化：50 年前と現在の比較研究

言語は、社会の変化とともに常に進化している。日本語も例外ではなく、時代とともに新たな言葉が生まれたり、既存の言葉が使われなくなったりする。このような言語の変化は、文化や社会構造の変遷を反映する重要な要素であり、特に近年の技術革新やライフスタイルの変化が日本語に与えている影響は顕著である。

従って、現在の日本を 50 年前と比較すると、社会のあり方そのものが大きく変わっている。高度経済成長期の日本では、企業文化が重視され、集団主義的な価値観が強く反映された言葉遣いが一般的であった。一方で、現在の日本社会は個人主義が進み、インターネットや SNS の普及によって新たな言葉や表現が急速に広まる環境となっており、特に、若年層を中心にカタカナ語や略語、ネットスラングなどが広く使われるようになり、高齢層との間で言葉の認識に差が生じている（堀尾, 2015）。

また、敬語の使い方や話し方にも変化が見られる。50 年前の日本では、目上の人に対する敬語の使用が厳格に求められ、職場や家庭でも敬語表現が日常的に使われていた。しかし、現在ではフランクな言葉遣いが一般化し、特に若者の間では敬語に対する意識が変化している。例えば、職場においても上司と部下の間でカジュアルな会話が増えており、これまでの伝統的な敬語文化

コメントの追加 [AL1]: この後に「例えば」と続けて、実際に新しく生まれたり使われなくなったりした言葉を例示しても良いと思います。

コメントの追加 [AL2]: ここは参考文献があったほうが良いです。

コメントの追加 [AL3]: 前段落では近年の変化について、この段落では 50 年前と現在の相違について書かれていますので、「従って」という接続詞は適切ではなく、削除されたほうが良いです。

コメントの追加 [AL4]: 一文が長すぎるので、二文に分けられたほうが良いです。

コメントの追加 [AL5]: 読者によっては意味が取りづらいので、日本語に修正されることをご検討ください。

とは異なるコミュニケーションスタイルが広がっている（野田・高山・小林, 2014）。

さらに、ジェンダーや価値観の変化も日本語に影響を与えている。50 年前は、男性言葉・女性言葉の違いが明確で、女性は「～わ」「～のよ」といった語尾を使うことが一般的だった。しかし、現代ではジェンダーニュートラルな表現が増え、言葉の性差が薄れつつある。このような変化は、社会における多様性の受容や価値観の変化と密接に関連している（小柳, 2013）。

このように、日本語の変化は単なる言葉の移り変わりではなく、社会全体の変遷を映し出す鏡とも言える。本研究では、50 年前と現在の日本語の違いを明らかにすることで、言語変化の傾向を分析し、その背景にある社会的要因を考察することを目的とする。また、若年層と高齢層の言語使用を比較することで、世代間のコミュニケーションの課題を明確にし、円滑な相互理解を促進するための知見を提供する（尾谷, 2020）。

日本語の変化に関する研究は、言語学のみならず、社会学の分野においても重要な意義を持つ。言語の変化は社会の変遷を反映するものであり、日本語の変化を分析することで、社会構造や価値観の変化についても考察できる。

コメントの追加 [AL6]: 読者によって「カジュアルな会話」のイメージは異なると思いますので、「カジュアル」を日本語に直すか、もしくは説明を補足されると良いと思います。

コメントの追加 [AL7]: 前段落も「また」で始まっているので、表現を変えております。

コメントの追加 [AL8]: ここは具体例を少し入れたほうが、読者にとってイメージしやすいと思います。

コメントの追加 [AL9]: 研究目的としては分かりやすいですが、同様の研究はこれまで行われてこなかったのでしょうか。もし先行研究があるなら、それと本研究の違いを明確にする必要があります。

コメントの追加 [AL10]: 社会学だけでなく、教育学や歴史・文化研究においても重要な意義を持つと思います。そのような視点からも研究の意義を強調されてみてはいかがでしょうか。